時事新報は一年三百六十五日一日も休刊なし

時事新報

第二千二百五十六號 明治廿二年四月十一日 木曜日
舊曆已丑三月十二日 (丁、巳)
日出午前五時十五分 日入午後六時十分 月出午後一時十分 月入午前二時三十三分 滿潮午前零時三十三分 午後一時十七分
(西曆一千八百八十九年)

時事新報

議員の候補者

日本は純然たる農產國なり政府の歳入七千六百萬圓にして其中四千二百萬圓は地租より入るものなれば日本にて土地を所有するものは納税者として國の政費七分の四を負擔するものなり其義務輕からずと云ふ可し扨國に代議の政を布き國會を開き人民をして國事に參せしむるには種々の理由もあることならんなれども其第一の目的は國民たるの義務を負擔する者に國政參與の權利を與へんが爲めなりと云ふて不可なかるべし此點より見るときは日本の農民即ち土地の所有者は國民中最重の義務を負擔するものなれば國事に參するの權利も亦他の民族に比して寧ろ大なる可きも輕きに失するの理由ある可らず過般公布されたる衆議院議員の撰擧法に撰擧人幷に被撰人の資格を定るに直接國税を標準と爲し其直接國税をば地租のみに限らずして所得税をも之に加へたるは如何なる理由に出でたるものか之を知る可らず固より今の歳入に於て所得税の金額は百萬餘圓に過ぎずして地租は前文の如く多額を占むるのみとなれば全國中にて撰擧人被撰擧人の數は地租の納税者即ち農家に多かる可き筈なれども凡そ人事に關する豫算の數は往々實際に違んで却て反對の結果を見るの例なきにあらざれば今回の議員撰擧の如きも能く實際に注意し國會議場に於て農家議員の多數を占るのみと果して豫算の如くならしむるの工風肝要なる可し

近來各地方よりの來信に憲法發布以來政治社會は頓に春色を催ふし人々花に先つて狂するの觀ある中にも議員撰擧の一條は最も人心を動かして到る處候補者云々の噂を耳にせざるはなし而してその指定せんとする所の人物は如何なる種類の者なりやと云ふに其地方々々の名望家財產家を以て之に擬するは固より事の自然なれども又一方には然らずして國會議場を書生論の場なりと認め六かしき議論の場所には滅多の人物を出す可らず若しも撰擧法の資格を以てすれば我々地方の大家豪農に候補たる可き者固より乏しからずと雖も何分にも紛議爭論の場所となりては容易ならず寧ろ久しく東京などに在て事慣れたるものか若しくは官邊に奉職して世間に知られたる輩に讓るこそ然る可けれなどゝ淺墓にも速了して既に其邊の用意に取掛りたる向もなきにあらずと云ふ抑も國會の議場は一なれども人々利害の關する所は各々一なる能はずして或は之に依て平生の功名心を滿足せしめんとて恰も私の爲めに國會を弄ぶ者もある可し又或は國會を以て眞に國民の利害を代表しその權利を保護するの場所と爲さんと志す者も少なからざる可し而して今の地方にて多くの土地を所有する人々は即ちこの後者の種類にして眞實國會を以て權利の保護城に充つ可き筈なるに然るに如何なる心得にや自ら好んで其保護城を明渡して他人の利用に一任せんとす我輩の不審に堪へざる所なり

國會の議場に立て堂々の議論を吐き或は政府に左袒して其議案を辯護し又は之に反對して其政略を攻撃するなどは固より壯快にして政論家が得意の役前なる可しと雖も斯る壯快事は政論の頂上積極の談にして容易に望む可きにあらず日本の憲法は極めて完全にして議院法も亦周到なりと云ふと雖も何を申すも國會は我國創始の業にして國民參政の手初めなれば今日に在りて我々人民の覺悟を云はゞ進んで積極の事を爲さんとするよりも寧ろ憲法の下に自家の權利を保守して毫釐も毀損せざる事に注意するこそ肝要なるべし即ち進んで天下國家の利害を政談風に談ずるよりも退て自から守るの覺悟を定む可きのみ病氣の容體を述べんとならば必ず自身にす可し、他人の取次を用ゐる勿れとの道理は爭ふ可らず然らば則ち土地に關する眞實の利害は其土地を私有する地主にして始めて適切なる可ければ其私の利害を保護するに他人の取次を用ふ可らざるの道理も亦明白なる可し左れば議場の事は決して高論多言を要せず唯憲法の範圍內に居て謹んで自家の權利を讓る可きのみ或は辯舌に拙き者は發言討議にも及ばず默して他員の喋々を聽き能く自家の利害に關す可き要點を察して其決議に至り或は起立し或は起立せずして議會一員の權利を利用すれば以て代議士たるの職分を達するに足る可し議論不得意の故を以て漫に他人に依賴して大切なる地方の權利を棄るは我輩の取らざる所なり

官報

○司法省訓令第八號

裁判所 廳府縣

當省主管歳入過誤納下戻金ハ大藏省主管經費ヲ以テ支辨スヘキ儀ニ付整理科目ノ儀ハ二十二年四月同省訓令第二十二號ノ通心得ヘシ

明治廿二年四月十日 司法大臣伯爵山田顯義

○辭令

明治二十一年十二月及同二十二年一月中國債局ヘ交付シタル起業公債證書ハ局員ヲシテ檢査セシメタルモ檢査疎漏ニシテ誤刷ノ儘交付シタル段不都合ニ付譴責ス

大藏省記錄局長 浦 春暉

(各通)

印刷局二等技師 佐田 清次
印刷局三等技師 本原 靜一

明治十九年五月中製造ノ起業公債證書誤刷ノ件不都合ニ付譴責ス

大藏省國債局次長 野本 高義

明治二十二年三月二十八日日本銀行ニ於テ金祿公債償還抽籤立會ノ際籤札ノ違算アリシヲ心付カサリシ段不都合ニ付譴責ス(以上四月八日大藏省)

○カンブリッヂ公爵夫人逝去 英國皇帝陛下の叔母に當らせらるゝカンブリッヂ公爵夫人は去る七日逝去せられたる旨一昨八日午前三時五十四分發電報在倫敦本邦公使館より到達せり(外務省)

○和蘭國皇帝 同國皇帝陛下國務を見る能はざるを以て假に王權を參議院に委托せらるへしとの議案は該國々會の承認する所となりたる旨在同國本邦公使館發電報去五日午後十二時四十分到達せり(外務省)

雜報

○鎭長等の更迭 海軍省にては既に記したるが如く各軍艦を三鎭守府に配置し夫と同時に艦長其他の乘組員にも餘程の更迭を行ふの見込なりしも當時演習等のありたる爲め一時見合せしが最早演習も相濟みたれば愈々近日其更迭の沙汰あるべしとなり

○舞鶴鎭守府 の位地は既に其筋にて丹後國加佐郡餘部村と定め敷地買上方等に着手したる趣なるが該工事は實に巨萬の費額を要するは勿論佐世保、呉兩鎭守府の如きも既に粗ぼ竣工に至りたる今日なれば敢て速成を期せずして數年の間に漸次其工事を進むる計畫のよしにて愈々其起工に着手するは到底來年度に在るべしといへり

○在英日本公使館の祝宴 英國倫敦なる日本公使館にては豫て二月十一日の紀元節を以て憲法發布の盛典を行はせらるべしとの電報到達したるを以て岡代理公使は其祝意を表せんが爲め當國在留の本邦人へ夫々招狀を發せしが同日は前日の午後より降雪ありしにも拘らず朝來一天晴れ渡りて好天氣となりしかば定刻に來會せるもの五十六名に及び同館員も共に打混じ館內の廣間に於て宴會を開き公使は先づ當日外務大臣より接手したる電文を朗讀して祝辭を述べたる末一同孰れも拍手歡呼して遙に我が天皇陛下の萬歲を祝賀し奉り夫より餘興として各々得意の諸藝を演じ唱歌あり能樂あり或は西洋芝居を催すもあれば落語をなすもあるなど斯く通宵打興じ孰れも歡を盡して散會したるよし倫敦よりの近信に見ゆ

○第四霞天號 昨年來石川嶋造船所に於て製造中なりし海軍省水雷用船第四霞天號工事は昨今內外部とも粗ぼ竣工したるを以て本月中旬には進水式を擧行する筈なりと

○ハンプデン氏 我東京の英國公使館詰を命ぜられて去年來着せし通辨生セー ピー ペンチール氏と同じく試驗に及第し其後オクスフォルド大學に於て學位を得る爲めに獨り許されて赴任を延引せし同生 ホバート ハンプデン氏は始め支那北京詰を命ぜられしが後ち改めて我國に赴任することゝなり既に途に上りたれば遠からず來着するならんと云ふ

○卒業生配置 今度東京電信學校を卒業したる電信技手四十餘名は大坂外二三の遞信管理區各電信局へ配置したりと

○臨時縣會開設 山形縣にては今度の市制實施に付其經濟を區別する爲め來る十五六日頃より臨時縣會を開くよし

○小學生徒の運動會 京橋區內の各公立小學校生徒一同は來る二十日品川御殿山に操出して運動會を催し各種の遊技を行ふよし

○大日本教育會常集會 は來る十三日午後一時より一ツ橋外帝國大學講義室に於て常集會を開き會員フーク氏、議員矢野文雄氏其他兩三名の演說あるよし

○北陸公論 豫て噂ありし北陸公論は去る五日富山縣富山總曲輪百六十一番地の同社よりその第一號を發兌せり

○京都の中外電報 は此度更に政治新聞に改め大同團結の主義を贊成するよしにて目下其計畫中なりといふ

○秋田馬車鐵道 同鐵道工事は日本土木會社に引受昨年中工事に着手せし處冬季の積雪にて一時工事を中止し居たるが最早解氷の季にも至りしを以て此程よりレール布設に着手せし由なれば來る五月十日頃には該工事も竣功する見込なりと

○日本家屋改良會社 麴町區富士見町一丁目居住の竹田直治外三氏は今度歐洲に行はるゝ家屋改良會社の例

に倣ひ資本金三
る有限責任の一
を建築して人に
として建築費を
圖建築設計の担
を附する等種々

○家畜市場の設
は同社の事業擴
を巡廻の途次同
市場設置の儀を
認可を得たるに
牛會を建設し各
する計畫ありと

○異珠移殖の計
年石川縣下能登
移殖及繁殖の事
畫中なりし處に
嶋喜三郎氏同地
るに付今より着
を得らる可しと
へ不日組合規約

○鯡魚の移殖
近海の鯡魚を佐
しとて本年も同
手五十嵐高城氏
に出發の筈なん

○製絲及び叛
縣川越近傍上
宅地附屬とも
以て水車機關に
他附屬諸器械
くも來月下旬

○生絲製茶の
郵船シチー オ
輸出せし生絲
生絲 上海より
七十五個、横濱
製茶 發地 神
着地 桑港 紐育 シカゴ
合計

○藥用呪子
專賣特許を得て
掛けと爲し自由
みの內へ水藥を
嫌ひにても知ら
りといふ

英國勞働 職人の
英國の職人は能
して職人團結を
位をあさんとす
よりて知るを得
救濟の智識を
是れ實に一朝
を保護するの